

保険薬局向けAI医薬品需要予測サービス発表

ユニケ 対物業務のICT化による薬局DX加速に意欲

ユニケソフトウェアリサーチは電子薬歴レセコン一体型システム「P-CUBE」のオプション製品として、保険薬局向けのAI医薬品需要予測サービスをリリースすると発表しました。

保険薬局のレセプトコンピュータで入力した調剤実績や在庫実績のデータをクラウドで処理することにより、薬局内のコンピュータリングだけでは難しかったAIによる医薬品の需要予測を実現。簡単な発注条件の選択のみでAIが学習した調剤データに基づく需要予測により、医薬品の発注業務において最適な発注品目・数量が提案されることにより、大幅な在庫金額や業務時間の圧縮、欠品による機会損失の防止などの効果が期待できるという。

薬局ごとに発注点を設定して発注する手法では、一品ごとに適切な発注点を設定することが難しく、また季節性への対応が難しくなることから在庫金額が増えがちなが、AI医薬品需要予

測では季節変動や患者の来局動向などをAIが学習することで、発注点の設定は不要となる。また調剤頻度が低く需要予測が難しい医薬品は、自動発注は行わずAI発注勧告リストを出力し、薬剤師の判断を仰ぐことでよりきめ細かい発注業務の実現を促す。

薬剤師の業務は対物から対人へと比重や価値観が変わりつつあるなか、対物業務の医薬品在庫管理は大きな負担に指摘され、患者のために欠品できない反面、医療費削減や経営効率向上の観点から積極的に展開する方針にあるとしており、AI医薬品需要予測と他社製の在庫管理システムとの連携を構想し、保険薬局マニケット全体にAIを活用したDXの実現を提案する一歩を寄せている。

さらには適正在庫が求められ、約1000品目以上ある医薬品の発注業務には知見、経験とともに相当の業務負担が発生することになる。

サービス発表に際して同社では、こうした背景から対人業務時間の創出にはICTによる対物業務・医薬品発注時間の削減は急務と強調。保険薬局の業務システムクラウドを連携できるデジタル基盤の構築を通じたAI医薬品需要予測の実現を経て、今後クラウド基盤を活用したサービスを積極的に展開する方針にあるとしており、AI医薬品需要予測と他社製の在庫管理システムとの連携を構想し、保険薬局マニケット全体にAIを活用したDXの実現を提案する一歩を寄せている。

